

株主総会 質疑応答要旨

2024 年6月 28 日(金)開催の当社第 96 回定時株主総会における質疑応答の主な要旨は次のとおりです。

質 問	回 答
GPX プロジェクトに関する引当金は、2023 年度の決算に反映する必要があったのか。	2024 年 3 月期決算が大幅な損失計上となったことにつき、深くお詫びしたい。Zachry 社が Chapter11 を申請するに至る要因が 3 月末時点に生じていたと判断されることから、会計上「修正後発事象」として 2024 年 3 月期に反映させる必要があった。
情報開示に問題はなかったか。会長と社長は責任を負うべきではないか。	顧客との守秘義務があり開示できない事項があるが、可能な限り情報開示をしてきたし、今後も開示に努めていきたい。 今回の決算は損失を認識しているということだけでなく将来発生するかもしれないコストを見積もって引き当てたものなので、新たな契約締結によりこれを取り崩して利益化することが会長・社長をはじめとした経営陣の責務であると考えている。
5年前にも北米案件による大きな損失計上があった。今回は損失を取り戻してほしい。	5年前に発生した損失と今回の損失は、性質が違うものである。今回の損失は、実際に発生したことを認識しているわけではなく、将来発生するかもしれない「リスクマネー」を引当金として見込んだということである。 顧客とは友好的な関係を構築しており、基本的にサポートするということを表明してくれているし、プロジェクト完工に向けて契約の協議を進め、McDermott 社とともに工事遂行していくことを確認している。 第2四半期以降にこの引当金を最大限取り戻し、利益化することを目標としたい。不退転の覚悟を持って、社長自身が先頭に立って交渉に臨む覚悟である。引き続き、株主様のご支援をお願いしたい。
370 億円以上の引当金はないか。エンジニアリング会社の冬の時代がやってきていないか。2025 年3月期は黒字転換できるのか。	今回の決算は、現時点までに存在する合意文書を踏まえた契約金額及び十分と見込まれる費用に基づいた引当金等を反映して締めている。また顧客が今後の追加コストを一切負担しないというベースで積んでおり、さらなる追加の損失は想定していない。今後、しっかりと引当金を取り戻すことに努めていきたい。 また、エンジニアリング会社は、今ますます世の中から求め

	られていると考えている。電動化、脱炭素、生成AIの実現など環境の変化に対応してステークホルダーと協業し、顧客の悩みに応えていくことで、我々にはビジネスチャンスがますます増えていると見ている。 2025 年3月期は黒字を達成したいと考えている。
McDermott 社 (CB & I 社) が、GPX プロジェクトから離脱する可能性はあるのか。数年前に Chapter11 を申請した会社だが、大丈夫か。	Zachry 社の離脱後を想定して、当社子会社である CIC 社とともに顧客とプロジェクト完工に向け協議を行っていること、契約上個社の事情により離脱は認められていないこと、加えて同社は GPX プロジェクトの顧客のうちの一社であるカタルエナジーからカタルにて非常に大きなプロジェクトを受注・遂行中であること、毎日のようにコミュニケーションをとっておりプロジェクト完工に向け共同して進めていくことを確認していることから、GPX プロジェクトを離脱する可能性は極めて低いと考えている。 また、同社は十分なキャッシュ・フローを有していることを確認しており、工事の遂行について問題ないと考えている。
当社は GPX プロジェクトから離脱する可能性はあるか。	顧客との関係において、ジョイントベンチャーが連帯責任を負うこととなっている為、離脱することは考えていない。当社としては顧客からどのような形でどのようなサポートを得て完工に向けて進めていくかということを追求すべきと考えている。 なお、離脱を申し立てている Zachry 社は、顧客から巨額の賠償請求を受けている。
工事の遅延リスクはないか。	現状、顧客から遅延損害金についての話は出ていない。顧客とは十分に合理的なスケジュールをお互いに作成していくことに合意しており、工事遅延リスクが顕在化する可能性は低いと現時点では考えている。
今後の大型案件の取り組み方針は？	当社の財務体力を勘案すると、現時点で、顧客との適正なリスク分担なしに、何千億円もの責任あるいは連帯責任を負うような大型ランプサムターンキー案件に取り組むことはできない。 一方で、顧客との十分な相互理解の下、顧客が JV 契約上の連帯責任も含めてコントラクター側と適正なリスク負担について合意し、当社が財務的/能力的に取り組める範囲にリスクを限定することが可能と判断される案件については、取り組みを検討する。

大型プロジェクト受注の際のパートナー 企業の選定方針は？	パートナー企業の選定基準は、地域性・プロジェクトの経 験・財務状況等多岐にわたって定めている。Zachry 社は建 設実績があり、かつ契約時点で財務状況も問題なかった。 McDermott 社については特にその技術力を評価している。
---------------------------------	---

以上